

## 関わるきっかけをくれる一冊 —『障害者スポーツの世界』を読んで—

富田 藍<sup>1), 2)</sup>

- 1) リハビリテーション・エンジニアリング 編集委員会
- 2) 医療法人社団苑田会 花はたりリハビリテーション病院

### 障害者スポーツの世界

アダプテッド・スポーツとは何か

藤田 紀昭 著

角川学芸出版

ISBN978-4-04-621614-4

C0075 ¥2400E



障害者スポーツという言葉は、パラリンピックなどを通して広く知られるようになった。しかし実際にスポーツに取り組んでいる障害のある人は、決して多いとはいえない。本書『障害者スポーツの世界』は、そうした現状を背景に、障害者（アダプテッド）スポーツとは何か、そしてそこに関わる人々の姿を丁寧に描き出している。

第1章では、「アダプテッド・スポーツ」という概念が紹介される。身体に障害のある人などの特徴に合わせて、ルールや用具を改変したり新たに考案したりして行うスポーツ活動を指すという定義は、対象を障害者に限定しない広がりをもつ。ここで大切なのは、適応するのが人ではなく、ルールや用具、つまり環境であるという視点である。スポーツの枠組みそのものを柔軟に整えていくという考え方は、私たちが日頃関わる支援の在り方とも重なる。

第2章では、選手、家族、指導者、サポーターといった多様な立場の声が紹介される。印象的だったのは、多くの選手が「勝つこと」だけでなく、工夫しながらスポーツを楽しむことの魅力を語っている

点である。車いすダンサーがどのように車いすで動きを表現するのかを試行錯誤したり、電動車いすを足で操作しながら表現を広げたりする姿は、制限の中から創造が生まれることを教えてくれる。

また、家族の関わり方も興味深い。積極的に支えるだけではなく、あえて過度に手を出さず、選手自身の意思決定を尊重する姿勢が紹介されている。その距離感が、自主性や工夫を育てるという考え方は示唆に富む。指導者も同様に、細かな説明を重ねるのではなく、少しの助言をきっかけに自ら考える余地を残す関わりを大切にしている。支援とは「してあげること」ではなく、挑戦できる環境を整えることなのだと感じさせられる。

さらに第3章では、各競技の概要やクラス分け、必要な器具などが具体的にまとめられている。興味をもった競技について、より実際のイメージを持つことができ、「自分にもできるかもしれない」と感じられる構成になっている点も本書の魅力である。

障害者（アダプテッド）スポーツは、特別な世界ではない。少しの関心やきっかけがあれば、誰もが関わるができる。本書は、見る側から一歩踏み出し、関わる側へと気持ちを動かしてくれる一冊である。

- 
- 1) リハビリテーション・エンジニアリング 編集委員会
  - 2) 医療法人社団苑田会 花はたりリハビリテーション病院  
〒121-0061 東京都足立区花畑 5-12-29